

2019年度 第3回

純正会地域包括ケア推進委員会 開催しました



アドバンス・ケア・プランニングって何の「と」?

ACPについて学習会

最近、医療、介護の現場でよく聞くACPという言葉、正式には「アドバンス・ケア・プランニング」と言います。アドバンス・ケア・プランニングとは、万が一の時に備えて自分の大切にしている事や望み、どのような医療やケアを望んでいるかについて、自分自身で考えたり、自分の信頼する人たちと話し合ったりすることを言います。

ACP（アドバンス・ケア・プランニング）→人生会議

将来の意思決定能力の低下に備えて、今後の治療・ケア、療養に関する意向、代理意思決定者などについて患者・家族、医療者があらかじめ話し合うプロセス。

委員会では委員の中に「ACPの言葉は聞いたことがあるけど詳しくは知らない」という意見があり、今回委員会でACPについて学ぶ機会を設けました。

前半は訪問看護ステーション太陽の横井さんが「アドバンス・ケア・プランニングって何の事？」というテーマでACP（基礎編）の講義を行いました。

後半はグループワークです。進行役の安藤さんが「亡くなるまでにやりたい事は何か」について皆



で想像し合い安藤さんにとって大切にしている事やどのような医療を望んでいるかについて話し合いました。安藤さんの「万が一の時」を想像して興味深い意見がたくさん出ました。

その後、エンディングノートから抜粋した「最期にしたい事」や「最期を迎えたい場所」等を個々で考えてそれをグループワークで意見交換しました。

自分が元気なうちに意思を伝えるということはとても大事です。自分の「万が一の時」に置き換えて、自分の最期を深く考える良い機会となりました。

そして参加した委員のほとんどが家族と「万が一の時」について話したことがない事がわかりこれから自分の思いを家族に伝えていこうと気持ちを新たにしました。



参加された東洋病院の佐藤医師のご意見

今回は委員会で初めて佐藤医師が参加してくださいました。

医療の現場で終末期の患者さんやその家族と向き合う機会が多い佐藤医師ですが「医師も、終末期の方と今後について本音で話すことは難しい。相手の性格も大事だが日ごろから信頼関係を作っていくかなくてはいいけない。本人の思いや本音は近くで関わっている看護師やワーカーの方が知っていることもあるので情報を教えてもらえるとうれしい」とのご意見を頂きました。

医療機関や在宅関係者が連携することで本人の意向が明らかになる事もあります。あらためて連携の大切さを教えていただきました。

2部会

8月の委員会は医療法人生会会の職員の方をお招きし「精神疾患療養者への支援」について事例検討を行う予定です。その内容について話し合いました。その後には委員会初となる名古屋市立緑市民病院での委員会（9月）や第2回目の港区地域交流会（11月）が控えています。委員会としてはますます充実した内容で検討事項も多くなっています。参加してくださる皆様を楽しめる内容にしていきたいと意気揚々とした気分です是非とも今後の委員会に期待してご参加ください。お待ちしております。



次回の予定

日付	行事	場所
8月16日 13時半	精神疾患療養者への支援	東洋病院